



## 牛伝染性リンパ腫のまん延を防ぎましょう

### 牛伝染性リンパ腫（地方病性牛伝染性リンパ腫（EBL））とは…

EBLは牛伝染性リンパ腫ウイルスの感染により、牛の血液中の白血球がガン化し、リンパ節が腫大する病気です。

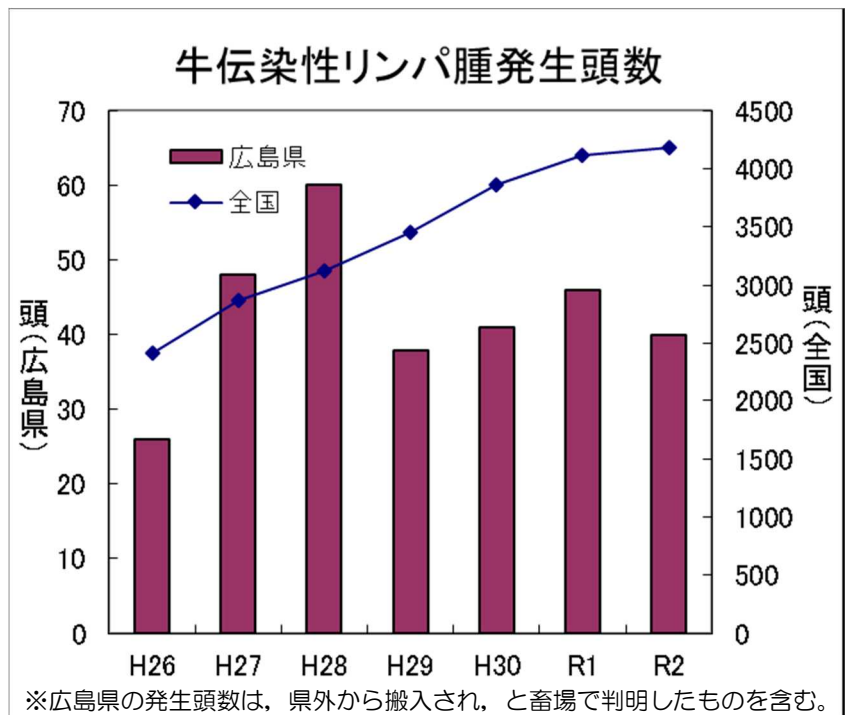
このウイルスに感染してもほとんどの牛は無症状ですが、感染した牛は、ウイルスを生体保有し、血液や乳汁等を介して、他の牛への感染源となり、知らないうちに感染牛が農場内にウイルスをまん延させます。

また、感染牛のうち数%は、数年の潜伏期間を経た後に発症し、生産性が著しく低下します。治療法やワクチンはなく、発症すると数週間から数か月で死亡します。

**全国的に発生頭数が増加しています！**

### 無視できない経済的損失

- 発熱や食欲不振を呈し、搾乳牛では乳量が急激に減少します。
- 肉用肥育牛においても、外見上健康な牛が、出荷後にと畜場で「牛伝染性リンパ腫」と診断され、全部廃棄になるケースが増加しています。このことから、農家にとって大きな経済的被害を及ぼします。



### 感染経路

～どのようにしてまん延するか～

- 1 水平感染（牛群内で、牛から牛へ）
  - (1) 吸血昆虫（アブ、サシバエ）の媒介で感染
  - (2) 感染牛の血液や分泌物に触れた注射針、直検手袋、器具等を他の牛に使用する
- 2 垂直感染（母牛から子牛へ）
  - (1) 感染牛の乳を子牛に給与し感染
  - (2) 出生時に産道で感染



## まん延防止対策

～できる項目から実施しましょう。～

- 1 抗体検査を行い、感染牛を特定する。
- 2 感染牛（抗体陽性牛）と、非感染牛を分離して飼養する。
  - (1) 特に放牧地等の吸血昆虫が多い場所では、分離飼養を徹底する。
  - (2) 酪農の場合、感染牛（抗体陽性牛）の搾乳は、非感染牛（抗体陰性牛）の後に行う。
- 3 感染牛（抗体陽性牛）のウイルス保有量を考慮し、淘汰・更新計画を立てる。
- 4 感染牛（抗体陽性牛）から産まれた子牛への対策を行う。
  - (1) 出生後すぐに、母牛（感染牛（抗体陽性牛））と子牛を分離する。
  - (2) 子牛に母牛（感染牛（抗体陽性牛））の乳を与えない。
    - ア 初乳製剤等を活用する。
    - イ やむを得ず与える場合は、56℃30分の加温処理又は完全に凍結させ、ウイルスを失活させる。（凍結した乳を解凍する場合は、免疫成分を壊さないよう、50℃以下の温湯を用いる。）
  - (3) 子牛を保留する場合は、6か月齢以降に抗体検査を行い、ウイルスに感染していないことを確認する。
- 6 注射針や直検手袋は1頭ごとに交換する。  
耳標パンチ，除角器，去勢器具，鼻環装着器は1頭ごとに洗浄・消毒する。
- 7 吸血昆虫（アブ・サシバエ）等の駆除及び発生防止対策を行う。

### お問い合わせ先（牛伝染性リンパ腫に関する検査・対策等についてのご相談）

西部畜産事務所・家畜保健衛生所	082 - 423 - 2441（直通）
東部畜産事務所・家畜保健衛生所	084 - 921 - 1866（直通）
北部畜産事務所・家畜保健衛生所	0824 - 72 - 2015（代表）
農林水産局畜産課家畜衛生グループ	082 - 513 - 3607（直通）